

研修会

虫愛する縄文のかそりーぬたち

遠藤 登志子（千葉市）

日 時：2016年5月29日（日）10～15時、天気：晴

場 所：加曾利貝塚公園

講 師：千葉の自然に親しむ会会員（村杉久子 松本美千代）

参加指導員：21名、協力者：6名

加曾利貝塚公園は、遺跡調査で出た花粉などを基に植物相を考えて作られた遺跡公園です。およそ3万坪の広さに、縄文人の主食だったドングリの木であるクヌギやコナラの林があり、南貝塚の草原は千葉市のススキ群落に選定されています。

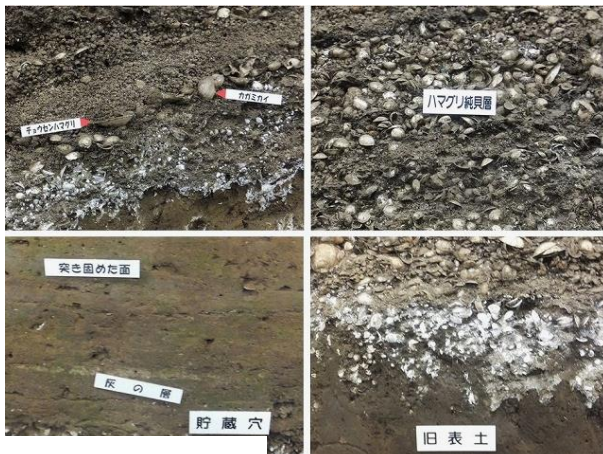
まず、史跡について、博物館のボランティアガイドの方に1時間の案内をしてもらいました。北貝塚の環状、南貝塚の馬蹄形はどのようにできたのか？ また、約5千年前の北貝塚の貝層の貝は小さいのに、約4千年前の南貝塚の貝は小さくないのはなぜか？ などの興味深い話が聞かれました。

次に、今回は観察型研修会ということで、植物の種類ごとにその植物に依存して生きている昆虫名などが詳しく書かれた小冊子が配られ、観察が始まりました。エゴツルクビオトシブミと揺籃、ヒメクロオトシブミ揺籃、ゴマダラオトシブミと揺籃、ミヤマイクビチョッキリ揺籃が見られ、揺籃の作り方の違いの観察もできました。

林ではオオミズアオが見られ、コケのついた古木にはコケガの幼虫がいました。ウマノスズクサにはジャコウアゲハの幼虫。加曾利では毎年、6月にかけて貴重な美しい3種のシジミチョウが見られますが、今日はウラナミアカシジミ2頭が姿をみせて皆を喜ばせてくれました。ノウサギが林内を駆け抜ける姿も見られました。昼食後、南貝塚草原に入り、加曾利自然観察会のメンバーが造った観察路に沿ってコバノカモメヅル・ツリガネニンジン・ゴマノハグサ・カセンソウ・レンリソウ(花)・ウマノアシガタ(花)など記録や資料もまじえて説明を受けました。メンバーによる外来種の選別除草や、在来種の保護活動が続けられ、千葉市レッドリスト（A～C）のうち52種もの植物が生育しています。

この後、縄文の森を通り、石嶋さんの案内で坂月川ビオトープに向かいました。坂月川と斜面林に挟まれた所ですが、ヘイケボタルが生息し、1日100トンもの湧水があるそうです。ウシガエルにより、オオアオイトトンボの数が減っているそうですが、トンボの種類も多く、トンボ調査を年4回実施しているそうです。坂月川愛好会により、よく整備され、すばらしい環境を維持されています。

盛りだくさんの内容でしたが、この季節の草木と昆虫などの多くの姿をたっぷり、しっかり観察しながらの楽しい研修会でした。



北貝塚の階層断面



イヌシデで観られたムシの観察